

鳥取県内の生涯学習情報が満載！



ページ
1 特集

**女性の視点で、公民館を拠点とした
住民が主役の居場所づくり**

生田自治公民館（倉吉市） いちごサロン

- 4 とっとり県民カレッジ連携
生涯学習講座情報（3・4月）
- 20 連携講座 おすすめピックアップ
- 21 奥大山の魅力を発信するガイドを養成しています
江府町観光協会
- 23 県立高等学校聴講制度のご案内
文化庁 文化情報ポータルサイト「Culture NIPPON」
- 24 私たちの活動を紹介します！
ギターアンサンブル・アミーゴ
- 25 鳥取県立生涯学習センター（お知らせ）
- 27 事務所移転のお知らせ
公益財団法人 鳥取県国際交流財団



「切り絵シリーズ」 米子ツツジ祭り（米子市）

市の花ツツジで盛り上がる恒例のお祭りも定着。苗木も配布されます。

絵・文：紙原 四郎 氏

鳥取県教育委員会発行

女性の視点で、公民館を拠点とした住民主役の居場所づくり

いくた 生田自治公民館（倉吉市） いちごサロン



男女ともに楽しく世代間交流ができるサロン

平成 27 年の女性部を廃止する動きから、地域の課題解決のために女性の視点を公民館活動に取り入れる必要性を感じ、「いちごサロン」を有志で設立。すべての世代で男女ともに支え合い、楽しく交流することができる場を目指して活動中です。代表の儀谷弘子さん、活動を支援する生田自治公民館長の難波誠さん、倉吉市小鴨公民館主事の栢田弘子さんにお話を伺いました。

倉吉市小鴨にある生田地区は、小鴨川沿いに位置しており、小鴨川の水の恵みを受け、稲作を中心とした農業の盛んな地域です。この地域にある八幡神社では、200 年以上前から旧暦の小正月の行事として、竹管を割り、管の中の粥の量によってその年の農作物の豊凶を占う「管粥神事」*が執り行われています。平成 28 年の鳥取県中部地震の時には、八幡神社の鳥居や石垣が崩れ、参道が通れなくなり、行事の開催が危ぶまれましたが、参道が 12 月に復旧し、例年どおり実施。行事を主催する生田自治公民館長の難波さんは、「地震の被害が大きかったので、行事ができるか不安でした。伝統が守れてよかったです」と安堵の表情を見せていました。



いちごサロン
代表 儀谷 弘子さん

この古くからある地域に、近年、新興住宅地やアパートが造成され、年々人口が増加。人口 885 名、世帯数 328 戸、高齢化率は 26.7 パーセント、14 歳以下の人口比率は 21.0 パーセントと子どもの数も次第に増加（平成 29 年 10 月末現在）。昔からの世帯と新しく移ってきた世帯が混在し、地域の間人関係の希薄化や昔からの世帯の高齢化が進んでいます。

※ 生田の管粥神事について

「管粥神事」は、毎年旧暦の小正月にかけて行われる神占いで、「くだがい」ともい、倉吉市の無形民俗文化財に指定されています。

江戸時代中期から始まったとされ、本県では、生田と中山町逢坂の八幡神社の 2 カ所のみで行われているめずらしい行事です。



アンケートから見てきた地域課題

今から25年前、婦人会がなくなる時に、住民の水谷陽子さんが、「公民館活動は、住民の半数を占める女性の視点や意見を反映させ、男女共同参画社会を目指すべきである」と訴え、婦人会に代わって新たに生田自治公民館の中に女性部を創設。

しかし、3年前、「女性は、仕事・家事・育児などで忙しいので公民館活動に参加しにくい。行事も固定化している。ただ行事を消化するだけで意味があるのか」という意見が出ました。この意見に対して公民館は、「女性部の存続についての住民へのアンケート」を実施。

このアンケート結果を踏まえて、女性部のあり方について、現女性部役員と元部長経験者とで検討を進めていきました。検討をした結果、高齢社会における公民館運営のあり方や、公民館活動における男女共同参画のあり方、女性部の活動についての課題がわかってきました。ちょうどこの頃、磯谷さんは女性部長に就任。これらの課題に対して女性部としてどう取り組むかについて話し合いました。

こうした活動の中で、女性の問題は高齢者問題と子育て支援に深く結びついていると感じた磯谷さんたち。高齢者や子育てをする親が孤立しないように、また、防災の観点からも地域の中で気軽に集い、交流できる場が必要だということ強く認識しました。

生田の
人の力は
すごい！

談笑する磯谷さん（左）と
榎田さん（右）



倉吉市小鴨公民館 まだ 榎田さんからのメッセージ

生田には「住民主体でみんなが交流できる場を作ろう！」と考える人がいます。そのこと自体がすごいことだと思います。サロンは、自分たちのまちを自分たちで暮らしやすいまちにしていこうという有志の集まり。やらされごとは人に責任を持っていきますが、自分たちで考えると自己責任が生じます。「だれかがいないとできないというのではなくて、一人ひとりが自立して、みんなでまちをつくる！そのためには人づくりが大事」そんな意識を持った人が増えると暮らしやすいまちになっていくと思いますね。生田の活動をとおして、公民館は何かの集まりや会合でしか利用できないという固定観念から、公民館は自由に入出でき、他のことにも利用してもいいという考えが広まると嬉しいです。

自治公民館と地区公民館の違い<倉吉市の場合> 地区公民館とは？

“地区”公民館は社会教育法に基づき、倉吉市が各地区（概ね小学校区）に設置した社会教育機関で倉吉市教育委員会生涯学習課所管です。施設管理及び運営は、指定管理者制度に基づき「公民館管理委員会」が行っています。

自治公民館とは？

“自治”公民館とは、集落の自主的な組織であり、施設管理及び運営は住民自身が行っています。

「倉吉市ホームページより一部抜粋」

公民館女性部とは別に有志で自由に活動できる「いちごサロン」を設立

住民同士の交流が深まることで地域の課題解決ができるのではないかと考えた磯谷さんたちは、小鴨公民館の榎田主事に相談。相談していくうちに、公民館の女性部とは別に有志の集まりを新たに作った方がより自由に活動ができるのではないかと結論に至り、平成28年1月、女性10名、男性5名で実行委員会を組織し、「いちごサロン」（以下、「サロン」という）を設立しました。「いちご」と名付けたのは「一期一会」の想いを込めたのと、毎月15日にサロンを開くことにちなんでいます。

だれもが使いやすい公民館の設備やサロンとしての活動について話し合いを重ね、「響かせよう♪トットリズム」を合言葉に展開する多様な地域づくり活動を支援する県の「トットリズム推進補助金」にチャレンジ。採択されるには、幅広い世代の集まる仕掛けが必要と県から助言を受けたのをきっかけに関係者連絡会を立ち上げました。子ども会、幼児の保護者、シニアクラブ、公民館など、いろいろな世代や立場の人が多くの意見を出し合い、みんなのサロンとなるように活動方針を決定。生田自治公民館の館長と副館長、会計がサロンの実行委員でもあるため、公民館の強力な支援を得ながら活動をスムーズに続けることができています。



月1回の実行委員会

生田自治公民館長

なんば 難波さんからのメッセージ

サロンの活動のおかげで、女性の視点で公民館がとてきれいに機能的になりました。赤ちゃんから高齢者までみんなが安心して交流できる環境が整いました。

サロンの取組の大きな柱の一つとして「防災」を挙げています。先日、防災についての講演会に参加した際に、講師が「防災で一番大事なことは‘サロン’である！」と言われましてね。やはり、日頃から住民同士の顔の見える交流の場があることで、防災の面でもとても大きな力になると思います。うちの公民館はいいことをしてるんだ！と実感しましたね。

防災は‘サロン’から！
うちはいいことを
しています！



住民が集まり、交流の輪が広がっています

サロンは、「世代間交流の場」「高齢者の健康寿命の延伸」「子育て支援」「防災意識の高揚」を4つの柱として活動中。活動内容は、関係者連絡会であらゆる世代の住民ニーズを取り入れて企画しています。

昨年は、5月に「いちご狩り」、6月に「ちまきと花壇作り」、7月に「七夕」、8月に「生田の偉人『門原源六さんを学ぶ』」、10月に「さつま芋掘り」、12月に「クリスマス会」と「しめ縄作り」など、月1回のサロンを開催。その他、認知症予防教室を12回開催。これには、毎回35名もの住民が参加しました。また、イチゴを栽培して一人暮らしの高齢者へ届ける活動も実施。

サロンの実施日が休日の時には、子ども会にも声をかけます。「いちご狩り」では、53名もの子どもたちが参加。「七夕」では、保護者のみなさんが綿菓子やポップコーン作りに協力してくれました。また、「しめ縄作り」では、高齢者の方が地域に残る昔ながらのしめ縄の作り方を子どもたちに教えるなど、サロンをきっかけに住民が集まり、心温まる世代間交流の輪が広がっています。

これらの活動が評価され、平成29年度倉吉市男女共同参画推進まちづくり表彰を受賞。磯谷さんは、「私たちの活動が評価されてとても光栄に思います。仲間とともに、公民館活動に女性の意見を反映させてこられた先輩の後に続きたいと思います」と喜びを語ります。



いちご狩り



しめ縄作り

すべての人がともに支え合うサロンを目指して

磯谷さんは、「男女共同参画は男性の意識も重要です。男性も女性も互いにサポートし合っています！！」とほほ笑みます。

サロンは「出来る人が・出来る時に・出来ることを」が合言葉。サロンの活動内容も限定していません。磯谷さんは「自分たちのしたいことが自由に行えるよう、居心地のいいみんなの居場所を住民みんなで作っていきたいです」と穏やかに話します。

住民の中には、サロンに歩いて来ることができない人もいれば、一人暮らしの高齢者でなかなか出て来ることが難しい人もいます。けれども、住民同士が親しくなり、みんなが気軽に声掛けができれば、サロンに来ることができなくても地域住民がつながっていき、地域が元気になっていきます。

取組が始まったばかりのサロン。磯谷さんは、「このまちに生まれてよかった、暮らしてよかったと思えるまちを目指していますが、まだまだ進化の途中です。どういう形になるのか、10年後を楽しみにしてください！」と瞳を輝かせていました。



認知症予防教室



クリスマス会



さつま芋掘り